

# 地域と学校をつなぐ 「地域コーディネーター」の活動が始まりました

子どもは学校教育だけでなく、地域に支えられて育ちます。学校と地域とが一体となった教育を推進するため、武蔵野市教育委員会は全市立小・中学校18校に一人ずつ「地域コーディネーター」を配置しました。これまでも学校教育は地域の方々に支えられてきましたが、明確な枠組みを設けることで、ほかの地域から転任したばかりの先生や保護者の方とも連携しやすいネットワークを構築します。

地域の中から選ばれた「地域コーディネーター」は、学校と地域をつなぐ窓口になります。またその活動を支援する「学校支援コーディネーター」を教育委員会に置きました。これによって学校・住民・行政の連携を強化しています。

地域に〇〇に詳しい方はいませんか？

学校

↓ ↑

地域コーディネーター

学校での指導経験はまだないですが、こういう人がいますよ

他校にはこんな事例がありますよ

↑

学校支援コーディネーター

こんな団体や大学、企業も協力してくれますよ

4人の地域コーディネーターにお話を伺いました。新たに誕生した地域コーディネーターですが、皆さん以前から学校や地域に関わっていた方ばかり。それぞれの経験を生かした活躍が期待されます。



先生は授業時間には動けない！  
お手伝いの必要性を実感しました

桜野小学校 後藤真澄さん

小学校で地域活動する方々を見てお手伝いしたいと思い、3人の子を育てながらできることをやってきました。今はPTAをやりながら青少協、地域社協などに関わっています。先日、消防団員でもある私自身が講師となって防災の授業を行いました。先生方には日中の授業があり、市役所の防災課とやり取りする時間が合わないことを実感。コーディネーターの必要性を感じました。



自分のできることを精いっぱい  
楽しみながらやっています！

千川小学校 伊藤さつきさん

子どもが在学中にPTAを経験し、その後は八幡町コミュニティ協議会の委員長として、コミュニティセンターの運営に関わっています。コミュニティセンターは人も情報も集まる場所。それをキャッチして学校教育の場に還元したいと思っています。お祭りや子ども会などの地域行事を大切にしている地域であることを意識しながら、千川小らしさを発揮した取り組みをしていきたいです。



難しい年頃の中学生にこそ  
何かしてあげたいと思いました

第三中学校 足立恵子さん

小学生は親・学校・地域に見守られています、中学生になるとあまり注意を払われなくなります。でも中学生は心と体のバランスが崩れてくる時期。しっかり見守るべきです。これまでは土曜日の学習支援や検定試験の手続きなど「先生じゃなくてもできること」を担って中学生たちと接してきました。それは地域コーディネーターの目的と重なっているので今後も頑張りたいです。



特に用事がないときにも  
学校に顔を出すようにしています

第二中学校 土屋清枝さん

もともと身体を動かすことが好きで、子育てが終わってから通い始めた市のスポーツ教室。やがて「指導員になりませんか？」と声をかけられたのがきっかけで地域と学校に関わるようになって、もう24年になります。学校の施設開放や体力テストのお手伝い、うどん作りの指導などをしてきました。子どもたちが町であいさつしてくれたり、声をかけてくれたりするのがこの仕事の喜びです。

学校はそれぞれ違いますが、地域の活動を通じて以前から知り合いだった地域コーディネーターの4人。4人とも「親でも先生でもない“地域のおじさん、お婆さん”は、子どもたちにとって心を開ける存在」だと話します。

